

枚方宿の変遷と町並みの保存

57期生

I テーマ設定の理由

東海道は、江戸・日本橋から京都・三条大橋間の五十三次ではなく、大坂・八軒家までの五十七次（伏見・淀・枚方・守口）とする考え方があることを知った。生まれ育った枚方にある京街道は幼い頃から何度か歩いたこともあったが、この機会に宿場町「枚方」の成立・変遷と町並保存の現状を調べたいと思った。

II 研究方法

- (1) 枚方宿の成立と変遷を文献により調査する。
- (2) 文献調査も踏まえて、枚方宿の町並みが現在どのような状況にあるか、京街道を歩いて実地調査する。
- (3) 旧枚方宿の「町家」に現在も住んでいらっしゃる方にお話を聞く。
- (4) 枚方市として行政が町並保存にどのように取り組んでいるかを市のHPや電話の問い合わせにより調査する。

III 研究内容

1. 枚方宿の成立と変遷

1596年豊臣秀吉が大坂城と伏見城をつなぐ交通路として文禄堤を建築した後、江戸時代初期に幕府の命により整備され現在の京街道の原型ができ、守口宿が整備されたと記録される1616年とほぼ同じ時期に枚方宿も街道の宿場町として成立したと考えられている。

1741年から紀州徳川家が参勤交代の2泊目として枚方宿を利用するようになった頃から枚方宿が最も繁栄した時期に入る。それ以前の文禄時代にオランダ商館長のケンペルが、その後文政期にはシーボルトが、枚方宿に立ち寄り日記にその感想を記している。また淀川の水運という面では、京と大坂の中間に位置することから「船番所」（水運を取り締まる役所）が置かれていたし、京から大坂へ下る三十石船に餅やゴボウ汁を売る「煮売茶船」（くらわんか船）の拠点の一つでもあった。

しかし、紀州藩の参勤交代は大部隊編成であるため枚方宿自体も大きな負担を強いられた。また、一般の民衆や物資の輸送は京から大坂へは伏見から船を利用することがほとんどであったためこの時期から既に枚方宿は「片宿」（大坂から京への上りのみ利用される）の状態であった。宿場町として整備され繁栄していた時期から既に衰退の要因を持っていたと言えるだろう。

明治維新の際は鳥羽伏見の戦いの影響を受けたが、枚方宿での戦闘は半日程度で終了し専光寺等は消失したものの宿場町全体が破壊されるようなことはなかった。

その後旧枚方宿に大きな被害を出したのは江戸時代にも頻りに悩まされた淀川の氾

濫であった。明治元年・明治3年・明治18年・明治22年・明治29年と旧枚方宿の堤防は決壊した。特に明治18年6月の水害は現在の枚方市伊加賀町から決壊し大阪市内まで影響するほどであったため、町のほぼ全域が水没した。このため明治29年から15年間にわたって淀川大改修が行われ現在の堤防が築かれたことにより、旧宿場町を淀川沿いに城壁のように取り囲む現在の町の姿となった。その後明治43年に京阪電車が開通し、枚方は現在の交野市方面への分岐点として商店が並ぶところであり、鍵屋の催す淀川遊覧船や鶴飼い、京阪電鉄の菊人形などでにぎわう大阪市郊外の手軽な行楽地となった。

第2次大戦後、旧枚方宿の地域は「枚方公園」と「枚方市駅」という2つの駅の徒歩圏であり、大阪にも京都にも電車で通勤できるという地の利があるため、高度経済成長期以降は特に急速にベッドタウン化し、現在に至っているといわれている。

2. 実地調査 ～町並みの現状～

(1) 1970年代後半の状態を示していると思われる「枚方宿跡見取図」(中島三佳著『宿場町枚方とくらわんか』p. 9) をもとに京街道とその周辺を歩き、2005年夏の旧枚方宿の町並みの様子を観察した。

その際、街道筋やその近くに建っている石碑・観光用道標・案内板を調査し、「旧枚方宿見取図」に位置を記入し種類を整理した。(次頁図1)

グループ1：観光案内を主な目的として近年設置されたと思われるもの

A～D, ①～⑩

平成14年に枚方市が「歴史街道：戦国・江戸時代ルート」の主要都市となったことに協賛して旧街道を舗装した際に設置されたもの。

I・II

設置者などは書かれていないが、同じ石材が使われている事、比較的新しい事から平成14年以降の整備の一環として設置されたと思われる。

グループ2：旧枚方宿の建物の歴史的な意義を伝えるための案内板

a・c：平成3年8月に「宿場町枚方を考える会」により設置されている。

(注1) 宿場町枚方を考える会一枚方市の歴史・民族・芸術などに関する資料の散逸の防止とそれらの収集、保管、展示など広く一般市民にアピールするとともに、郷土を知り郷土を愛する心を高め、合わせて地方史研究を推進する、という目的のもと設立された文化団体。

グループ3：江戸期明治期に設置された石柱状の道標(一・二と表示)

一：「宗左の辻」の道標-文政九年に3名の願主によって建立。江戸時代に製油業を営んでいた角野宗左が住んでいた辻を呼んだもので、磐船街道と京街道の分岐点でもある。交野に帰る人達を枚方宿の遊女がここまで見送りに来た所でもある。

二：磐船街道への道標で、明治33年に建てられていることから、宿場としての機能を失っても交通の要所という点は変わらなかった事が分かる。

グループ4：有志の方が設置して下さったと思われる手作りの道標。(イと表示)

(2) 「旧枚方宿の町家と町並」(昭和59～61年に行われた京街道旧枚方宿町並調査の結果をまとめたもの：1989年3月31日枚方市教育委員会発行 p.23)の地図をもとに

① 枚方宿跡見取図

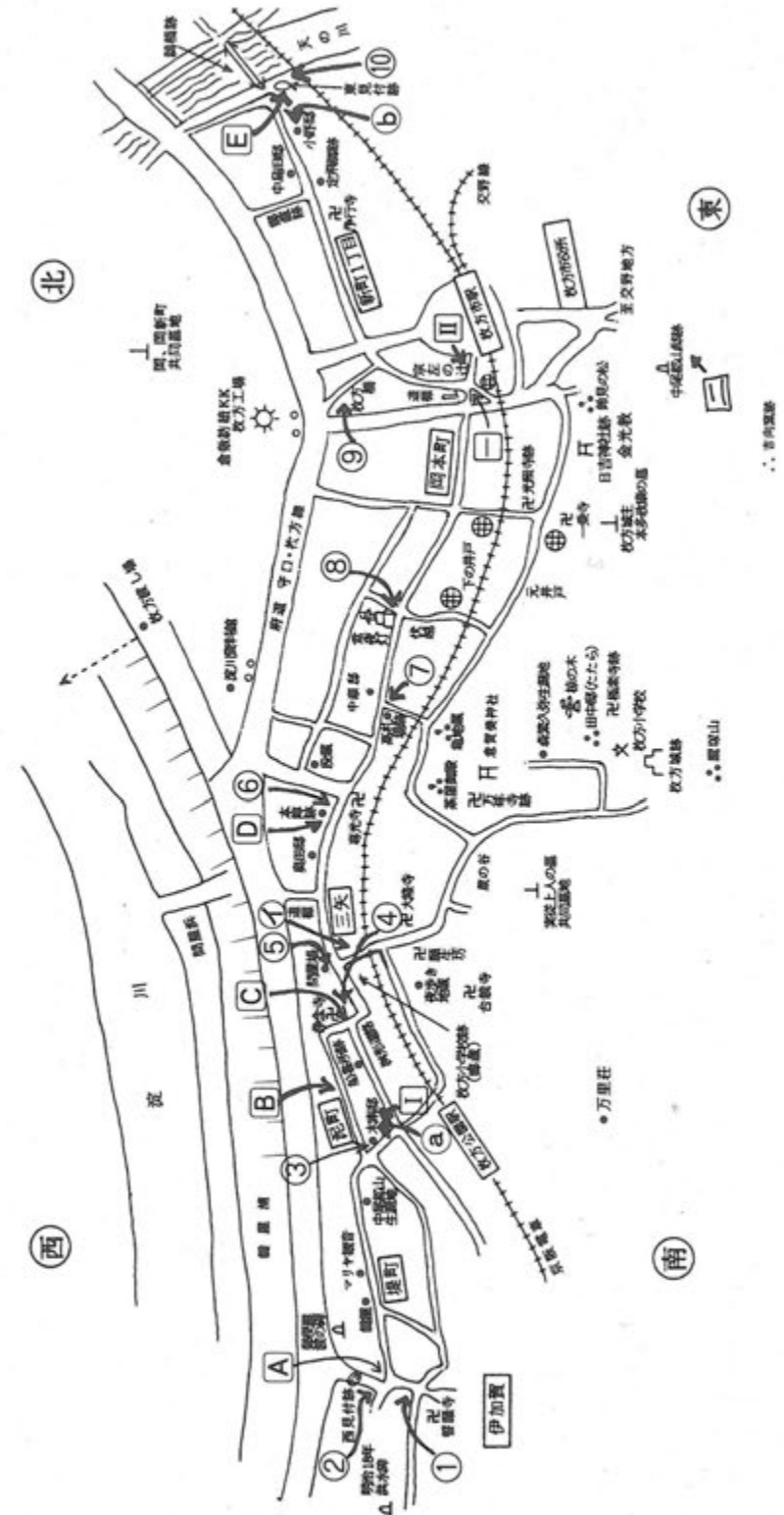
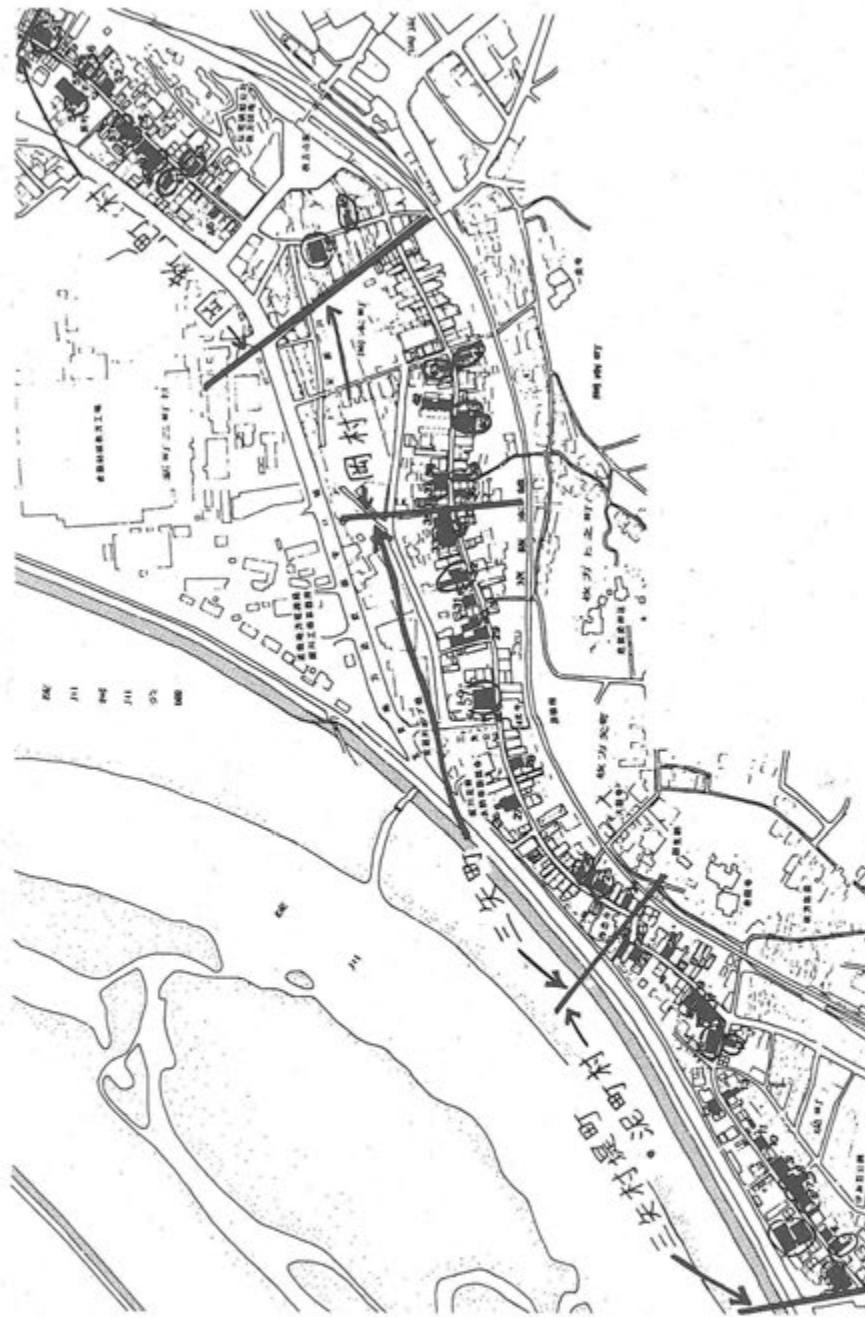


図1 石碑・観光用道標・案内板の現状



図II 昭和59～61年の旧枚方宿町並調査の結果

現地をたどり、当時調査に協力した56軒の家屋が2005年夏の時点で、1) 現存し、2) 家の改修のある場合も昔の面影を良く残している、という2点を満たしている場合、地図上の整理番号を○で囲み(図II)、次頁の表Iの名前に下線を引いた。なお、町並保存に関する聞き取り調査の際、この現地調査のときには確認できなかった、39. 林重人家住宅は「今も現地に住んでおられ、改装工事中である」という話をお聞きしたので、上記2点を満たしていると判断し訂正記入している。

表I

1 奥戸弘造家住宅	21 亀井信行家住宅	41 交川成一家住宅
2 田中正一家住宅	22 塚本勇家住宅	42 狩野和子家住宅
3 田中正一家住宅	23 水谷信一家住宅	43 北村英一家住宅
4 谷藤太郎家住宅	24 古谷勇家住宅	44 大塚亀次郎家住宅
5 高島良一家住宅(鍵屋)	25 阪口治家住宅	45 山藤清美家住宅
6 井上吉一家住宅	26 松田茂家住宅	46 橋本武雄家住宅
7 木保一郎家住宅	27 奥田光正家住宅	47 平澤一三一家住宅
8 村田信治家住宅	28 小野卓也家住宅	48 奥西弘家住宅
9 大林忠雄家住宅	29 柴田勝正家住宅	49 山口三治郎家住宅
10 大江房蔵家住宅	30 吉澤潤一家住宅	50 平澤・中尾家住宅
11 幡巧家住宅	31 西尾芳枝家住宅	51 新堂隆司家住宅
12 山北憲治家住宅	32 中瀬博次家住宅	52 森谷茂家住宅
13 田中政雄家住宅	33 西内泰三家住宅	53 品川政家住宅
14 川中重雄家住宅	34 菊井庄一家住宅	54 本藤健一郎家住宅
15 山本恭一家住宅	35 西村・加藤家住宅	55 前田勝三郎家住宅
16 福山由造家住宅	36 藤堂雅美家住宅	56 川島佐一家住宅
17 豊崎喜三郎家住宅	37 松本良蔵家住宅	57 小野誠一家住宅
18 今西敏一家住宅	38 井口睦子家住宅	58 明治18年遺稿 屋号「団平」
19 田中傳司家住宅	39 林重人家住宅	59 堀熊ギャラリー
20 早川久春家住宅	40 羽田隆英家住宅	

枚方宿旧地区名	家屋の現存数 2005年 / 1986年	現存率 %
旧三矢堤町・泥町村	9軒 / 23軒	約 39 %
旧三矢町	5軒 / 13軒	約 38 %
旧岡村	6軒 / 9軒	約 67 %
旧岡新町村	10軒 / 14軒	約 71 %
旧枚方宿合計	30軒 / 59軒	約 50.8 %

《各地区の現在の特徴》

- 旧三矢堤町・泥町村 江戸時代の船宿が保存されている枚方市立鍵屋資料館などがあり現在は静かな住宅地になっている。
- 旧三矢町 浄念寺があるが、立て替えられたものが多く、新しい家や更地・駐車場が増えていた。元来は本陣もあり町を中心だったと聞く。
- 旧岡村 京阪本線枚方市駅に近く、明治期以降創業した商店が多く残る。
- 旧岡新町村 駅に近いが人通りはほどほどであり、商店も多少あるが、早い時期から静かな住宅地となっていたようである。

参考にした調査は、バブル経済が始まる直前の時期に行われており、京阪枚方市駅の高架工事が始まっていて駅前の再開発工事も計画され、旧岡村地区の再開発は実際に行われて現在にいたっている。19年間(1986～2005)で、町家の数は約半分に減少しており、比率的に一番多く残っていたのは岡新町村、特に旧東見付周辺であった。

(3) 旧岡新町村東見付周辺での聞き取り調査

実際に古い町家に現在も住んでおられる方々に以下の項目を直接伺った。

a) 古い家屋に住む上で、長所・短所

- 長所：ゆとりがある。風通しがよく涼しい。ひさしが長く雨が窓に当たらない。土壁は塗り直せば長く使える。襖を取れば大広間になる。
- 短所：不便。維持費・修繕費がかかる。雨漏りがする。段差が多く建て付け

が悪い。冷暖房など光熱費がかかる。窓が少なく暗い。広いので掃除が大変。天井が低く鴨居に頭をぶつけやすい。幹線道路（府道京都守口線）に面しているの、震動が激しく痛みやすい。町家の特徴でもあるトオリニワは家の中に大きな土間が通っているため現在の暮らし方には不便な事が多い。

b) 家屋町並み保存に関して、行政に要望したい事

もっと早く保存に乗り出してほしかった（町家風家屋への改修補助制度も含めて）。街道を舗装し直したのなら電線も地下に入れてほしかった。電線、電柱が景観を壊している。

c) 東見付周辺は古い町屋がよく残っているが、その要因は何か

*実際に旧東見付付近に住んでいらっしゃる方々は皆「東見付周辺は古い家屋がよく残っている」というと驚いておられた。図Ⅱと表Ⅰを見せて説明すると感心し、暫く考えてからc)に対する考えを話して下さった。中には「昔を知っているからかもしれないが、京街道の古い雰囲気を残しているとは今では言えないと思う」という人も。

駅が近く便利で引っ越したくない。先祖代々住んでいる。新興住宅ではなく、駅も旧国道も近いが落ち着いて暮らせる。駅に近いと買い物が便利。

d) 実際に古い家屋に住んでいらっしゃる立場から感じておられること

→ a) ~ c) に重なる解答が多かった。

様々な話を伺う事ができたが「これからも古い町並みを残していきたい」とアンケートに協力して下さった方全員がおっしゃっていた。

《聞き取り調査から感じたこと》

実際に住み続けておられる方々はとても旧枚方宿の歴史をよくご存じて住んでおられるお家をととても大切にしておられた。町家に実際に代々住み続けておられることが現在の旧枚方宿の町並みの良いところなのだと思います。

(4) アンケートの中で「今は町家風に改装すると助成金がでる」という話を聞き、また、町並み保存に関して、住民の意見を市の施策にもっと反映して欲しいという言葉をしぼしば耳にした。そこで市のHPで確認し、枚方市役所都市整備部まちづくり推進課に電話でお話を伺った。

Q. HPに助成とあるが、いつから行われているのか。

A. 枚方市が歴史街道の戦国・江戸時代ルート主要都市となった平成14年から。以前に類似した制度は無い。今まで10軒ほどが助成を受けている。

Q. 街道筋に家を新築する際、景観に関する規制はあるのか。

A. 法的な制限は無いが、「まちづくり協定」を結び、できるだけ景観を壊さないようにしてもらっている。

Q. これから家屋町並み保存をどのように進めていくのか。

A. 「まちづくり協議会」を地元の方々に作ってもらっている。市の担当者と話し合いながら、まちづくりや町並み保存を進めている。

街道筋は、古い家屋を残して、新築でも町家風にするのであれば助成金を出していく。現在枚方宿の街道筋に古い家屋は30軒ほど残っている（注2）の

調査結果と一致) が、市としては、町家風の家屋をもう30軒ほどほしい。観光客の誘致にもつながり、商業も活性化する。

IV 考察

(1) 何故古い家屋は大幅に減少したのか

まず、バブル地価が最も高騰した時期に相続せざるをえなかった場合、相続税を支払うために町家を壊しマンションや駐車場にする、といったケースも多かったそうである。

第2に京阪線の高架工事があげられる。平成になって行われた京阪線の高架工事により、古い町屋が取り壊されたし、人の流れが変わるために駅前に完成した再開発ビルに古くからの店を移した商店もあったそうである。

(2) 何をもち町並み保存と言うか

市は「町並みを保存して歴史を生かしたまちづくりを進めていきたい」と言っているが、実際に古い家屋に住んでいて家を大切にしている人からは「どういう状態を保存と言うのか」という問いが出されている。市の方針と住民の願いが食い違う点もあるそうである。

町並み保存の在り方などの諸問題を話し合う場をもっと設けるとよいと思う。「まちづくり協議会」という場をもっと生かして、市は「どのようにまちづくりを進めていくか」、住民は「実際に古い家屋に住み続けながら、いかに町並みを保存していくか」をじっくりと話し合い、互いに納得できるより良い方法を探るといいなと思った。

今回私が旧枚方宿を歩いて思った検討課題に「新築で町家風の家を建てる場合のデザイン」がある。古い町並みは各地域の特色が出しやすいが、新築の場合は古い家屋と並んでいても遜色のないデザインでないと見栄えが悪い。「修景」という考え方もあるそうなのでそのデザインを実際に住んでおられる方と援助する市とで話し合えたらいいと思った。

V 感想

予備調査に来た地上げ屋や個別訪問する健康食品販売員に間違えられながら京街道を行ったり来たりした。突然訪問した怪しい中学生に長時間丁寧に話を下さった、くらわんかギャラリーの小野さん・旧東見付周辺の町屋に現在もお住まいのみなさま、本当にありがとうございました。現在も実際に住んでおられるにもかかわらず玄関やお家の中まで見せて下さったご厚意に心から感謝しております。鍵屋資料館の平尾先生・衛藤先生、枚方市役所都市整備部まちづくり推進課の島田さん、お忙しい中本当にありがとうございました。出原先生・廣森先生、最後まで丁寧に指導下さりましてありがとうございました。

VII 参考文献

宿場町枚方を考える会著『枚方宿の今昔』1997年
中島三佳著『宿場町枚方とくらわんか』1982年
枚方市教育委員会発行『旧枚方宿の町家と町並』1989年
文化観光情報誌『ひらり』vol. 2 2001年・vol. 9 2005年
枚方市HP
市立枚方宿鍵屋資料館展示案内／枚方市教育委員会